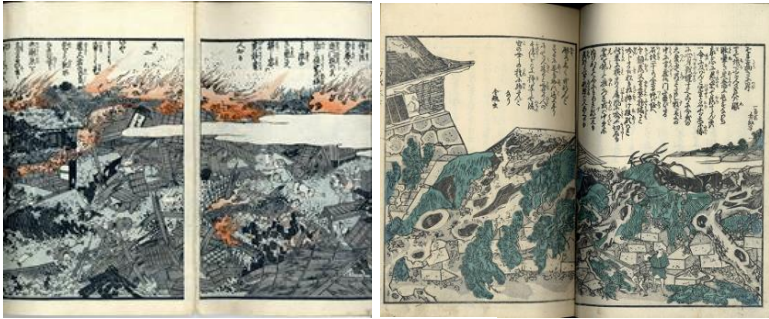


あんせいけんもんし

#44 安政見聞誌

作者：仮名垣魯文（かながき・ろぶん 1829-1894）あるいは
燕栗園千寿（ささぐりあん・ちほぎ 1800-1858）

刊行：安政3年（1856）



[K45/237/3]

📖 解題

■ 内容

安政2年10月2日（1855年11月11日）夜に起こったマグニチュード6.9の直下型地震（安政江戸地震）と、その後に生じた大火災の被害を扱ったもの。実際の被害状況だけでなく、逸話なども収録している。

刊行年・板元・作者の記載はないが、同時代の他の記録から、仮名垣魯文作、二世一筆庵英寿協力、三河屋鉄三郎版元で安政3年に出されたとされる。全3冊。非常に売れたが、幕府の許可を得ないで出版したため絶板となり、関係者は処罰された。ただし、署名がなかった魯文は罪に問われなかった。

挿画には一筆庵英寿以外に一勇斎国芳、一登斎芳綱、一鶯斎国周の署名がある。

■ 作者

従来は、野崎左文による仮名垣魯文の伝記『仮名反古』（初版 1895）と、それを引用した宮武外骨の『筆禍史』（初版 1911）の記述から、「仮名垣魯文

と二世一筆庵英寿の合作」とされてきた。しかしその後、野崎左文が『私の見た明治文壇』（初版 1927）中で、「魯文が自記に「安政見聞誌を書いた」と書いているが燕栗園千寿の作とする人もあるし、読んでみると原文に魯文の筆癖が見えない、判断がつかないので後考を待つ」としている。

仮名垣魯文は、幕末・明治前期の戯作者・新聞記者。本名野崎文蔵。別号鈍亭、猫々道人（みょうみょうどうじん）。花笠文京に師事し万延 1 年（1860）刊の『滑稽富士詣』で認められ、明治に入っても、『西洋道中膝栗毛』（初編 1870 年刊）、『安愚楽鍋』（初編 1871 年刊）などを刊行した。神奈川県に勤務した後、『横浜毎日新聞』の記者を経て、『仮名読新聞』『いろは新聞』を創刊した。


燕栗園千寿は本姓久米氏。武蔵国八幡（現・埼玉県）の生まれだが江戸・両国の書肆文会堂の養子となり山田佐助と改める。師匠西村千穎の号を譲られ「燕栗園」の二世となり、狂歌師として活躍した（『狂歌人名辞書』狩野快庵著 広岡書店 [911. 19/17]、埼玉県「埼玉ゆかりの偉人データベース」）。

一筆庵英寿は、大坂の人。溪斎英泉の門人。溪斎英寿ともいう。美人画の錦絵のほか、咄本「甘口ばなし」、滑稽本「滑稽鈍痴（とんち）奇論」などの挿絵をえがいた。戯作者として「敵討九里伊賀越」「浮説歌線会山（くどきぶしいとにあおやま）」などの合巻を執筆した。姓は酒井。通称は伊三郎。別号に吉泉子。生没年不明だが、文久年間（1861-1864）に歿とする資料もある。

一勇斎国芳（歌川、1797-1861）は江戸の人で、文化 8 年（1811）頃初世歌川豊国に入門。銅版画作品などに影響を受けた洋風表現の風景画や、奇想に富んだ戯画などに特色があり、門人には月岡芳年等がいる。

一登斎芳綱（歌川、生没年未詳）は、歌川国芳の門人として嘉永から慶応年間（1848～1868）頃、武者絵・風刺画・風俗画を描いた。

一鶯斎国周（豊原、1835-1900）は江戸の人で、はじめ豊原周信に入門。後に三世歌川豊国の弟子となった。狂歌を好み、役者絵、合巻の挿絵を描いた。

 本文を読む

< 版本 > ※3種類を所蔵

『安政見聞誌』上・中・下 [K45/237B/1] - [K45/237B/3]

『安政見聞誌』上 [K45/237A/1] ※以上2点は初刷と思われる。

『安政見聞誌』上・中・下 博愛堂蔵版 [K45/237/1] - [K45/237/3]

※角書がない、上巻ではなく下巻に「梅屋」の狂歌があることなどから、初刷ではないと思われる。

< デジタル >

早稲田大学図書館 古典籍総合データベース 「安政見聞誌」

< 現代語訳 >

荒川秀俊「安政見聞誌」（『実録 大江戸壊滅の日 安政見聞録・安政見聞誌・安政風聞集』荒川秀俊編著・竹内均解説 教育社 1982）[369.3/127]

 参考文献

野崎左文「私の見た明治文壇（抄）」（『明治文学回顧録集（一）明治文学全集』98 筑摩書房 1980）[918.6/176/98]

荒川秀俊「原本について」（『実録 大江戸壊滅の日 安政見聞録・安政見聞誌・安政風聞集』荒川秀俊編著・竹内均解説 教育社 1982）[369.3/127]

若水俊「災害における倫理観について（上）－江戸安政年間を中心として－」（『茨城女子短期大学紀要』25号 茨城女子短期大学 1998）[Z0513 148]

北原糸子「安政見聞誌」（『地震の社会史』北原糸子著 講談社 2000）[210.58/266]

※底本は『安政大地震と民衆』三一書房 1983 [369.3/158] [K45/219]

若水俊「『安政見聞誌』は仮名垣魯文の作か」（『茨女国文』12号 茨城女子短期大学 2000） ※当館未所蔵 CiNii オープンアクセスで閲覧可能